

報道関係者各位 - 川崎市市民ミュージアム 企画展のご案内 (開催中) -

昭和30年代から40年代の川崎に出会う。

# 企画展「川崎ヒストリー展」

知っている人も、知らない人も——昭和の川崎って、どんな場所？

当時の川崎駅前のジオラマやニュース映像など、当館所蔵資料で街の変遷をたどる。～



川崎市市民ミュージアムでは、2017年12月3日(日)まで、企画展「川崎ヒストリー展」を開催中です。昭和の川崎をテーマに、当館所蔵資料である川崎駅前のジオラマや古地図、写真やニュース映画を中心に、当時の街と生活の様子をご紹介します。

工業都市として発展した川崎は、工場の移転や大規模な再開発により風景が大きく変遷しました。さらに2017年には人口150万人を超え、まさに今なお発展を続ける地域です。本展では、昭和30年代から40年代にかけての市内の様子を、当館所蔵の「都市計画図」や町内の「明細図」、川崎駅前の巨大ジオラマ、日本で最後のニュース映画といわれる「市政ニュース」等を通じて振り返ります。また、昭和2年に開業した川崎駅前初のデパート「小美屋」のチラシ等も展示します。

地域に根差したミュージアムとして、移り行く街の記憶を記録していくとともに、近年川崎市に転居してきた新住民に対して、自分たちの住む街への興味関心を高める企画展です。

※本展は2017年8月11日(木)に開幕し、このたび当館所蔵の「写真」が展示物に加わりました。

[画像] 右：小美屋百貨店チラシ(昭和時代中期) 左上写真：川崎駅前(昭和30年代後半)  
左下写真：川崎駅ビル(昭和30年代後半) 中央写真：小美屋とトロリーバス(昭和30年代後半) ※すべて当館所蔵資料

～企画展「川崎ヒストリー展」開催概要～

- 【会 期】 開催中～12月3日（日）まで ※2017年8月11日（木）開幕  
【会 場】 川崎市市民ミュージアム 2F アートギャラリー1  
【観 覧 料】 無料  
【開館時間】 9：30～17：00（最終入館は16：30まで）  
【休 館 日】 毎週月曜日、11月24日（金）  
【主 催】 川崎市市民ミュージアム



[画像] 昭和38年ごろの川崎駅前を再現したジオラマ（一部拡大／川崎市市民ミュージアム所蔵）

関連ワークショップ

◆川崎市 中原区を見る・知る・知りあう「グラフィック・フォト レコーディング」ワークショップ  
昭和30年代の川崎市市政ニュース映画を見ながら、川崎の変遷をたどります。昔の写真や地図や、皆さんの記憶を壁に貼り付けながら、中原区について調べてみませんか？

日時：11月5日（日）・12月3日（日）各日14：00～16：00 ※10月は終了

3F ミュージアムギャラリー2 / 定員40名 / 参加無料 / 監修：フェリス女子学院大学教授 春木良且

<川崎市市民ミュージアム 施設概要>

多彩な表情を持つ都市、川崎。川崎市市民ミュージアムは、「都市と人間」という基本テーマを掲げて1988年11月に開館した博物館と美術館の複合文化施設です。



- 住所：〒211-0052 神奈川県川崎市中原区等々力1-2（等々力緑地内）
- 開館時間：9:30～17:00（入館は16:30まで）
- 休館日：月曜日（休日の場合は開館）、祝日の翌日（土日の場合は開館）、年末年始
- 観覧料：企画展、アートギャラリー展は展覧会によって異なる。博物館展示室は無料。  
\* 障害者手帳等をお持ちの方およびその介護者は、観覧無料。  
\* 20名以上の団体でご利用いただく場合、割引有。

■アクセス／下記いずれもバス停「市民ミュージアム前」下車すぐ

- ・武蔵小杉駅（JR南武線、横須賀線・湘南新宿ライン、東急東横線・目黒線）よりバスで約10分
- ・武蔵溝ノ口駅（JR南武線）・溝ノ口駅（東急田園都市線・大井町線）よりバスで約20分
- ・JR川崎駅よりバスで約40分

【プレスリリースお問い合わせ】川崎市市民ミュージアム 営業・広報担当 鋒山<sup>(ほこやま)</sup>・坂下・石澤

TEL：044-754-4500（休館日を除く9:30～17:00） FAX：044-754-4533

MAIL：pr\_kcm@kawasaki-museum.com

HP：http://www.kawasaki-museum.jp/

\* 指定管理者：アクティオ・東急コミュニティー共同事業体